

## 第27回吉岡弥生記念講演会 (第344回東京女子医科大学学会例会)

日 時：平成23年5月23日（月）13:45~16:15

会 場：東京女子医科大学 弥生記念講堂

対 象：本学会員，本学学生・教職員，一般

挨 拶

(司会) 幹事 橋本悦子

会長 宮崎俊一

平成23年度(第50回)吉岡弥生研究奨励賞授与式 13:48~13:55

結節性多発動脈炎を含むリベド症状を呈する疾患における血清マーカーとしての  
抗リン脂質抗体の検討とその病態の解明

皮膚科学 准教授 石黒直子

平成22年度(第49回)吉岡弥生研究奨励賞受賞者研究発表 13:55~14:35

性・年齢を考慮した非アルコール性脂肪性肝障害の  
病態の特徴と治療戦略

(座長) 副会長 肥塚直美

原発性アルドステロン症における腎機能障害に関する研究

消化器内科学 講師 谷合麻紀子

内科学(第二)助教 立木美香

第27回吉岡弥生記念講演 14:45~16:15

挨 拶

理事長 吉岡博光

(座長) 会長 宮崎俊一

弥生先生を語る

東京学芸大学 名誉教授 鷺山恭彦 氏

日本性差医学医療学会の誕生まで

財団法人野中東皓会静風荘病院 特別顧問 天野恵子 氏

### 性・年齢を考慮した非アルコール性脂肪性肝障害の病態の特徴と治療戦略

(消化器内科学)

谷合麻紀子

〔目的〕生活習慣病では，性・年齢が病態に及ぼす影響が大きい。非アルコール性脂肪性肝障害 (NAFLD) の病態の特徴を性・年齢の観点から生活習慣病との関連を中心に検討した。〔方法〕臨床病理学的に診断された NAFLD 625 (男 361, 女 264) 例を対象に，性別，年齢別 (30歳未満の若年，30~54歳の中年，55歳以上の高齢) に，食習慣に関するアンケート調査結果，生活習慣病 [肥満，糖尿病 (DM)，高血圧 (HTN)，脂質異常症 (DL)] の頻度，一般住民 (厚労省全国調査の年齢層別結果) と NAFLD の生活習慣病頻度の比較，を検討した。

〔成績〕男性：年齢別内訳は，若年 59 例，中年 193 例，高齢 109 例。食習慣では若・中年で高脂肪食摂取が多かった。BMI>25 の肥満は若年 73%，中年 68%，高齢 47%，BMI>35 の高度肥満は 17%，9%，5%，DM は 27%，25%，45%，HTN は 13%，22%，47%，DL は 56%，

60%，38% で，一般住民と比較し若・中年の肥満と DL が高率であった。女性：年齢別内訳は，若年 16 例，中年 81 例，高齢 167 例。食習慣では中年・高齢で果物・洋菓子摂取が多かった。肥満は若年 78%，中年 66%，高齢 51%，高度肥満は若年 63%，中年 12%，高齢 5%，DM は 19%，32%，64%，HTN は 10%，25%，41%，DL は 38%，50%，46% で，一般住民と比較し若年の肥満と高齢の DM が高率であった。若年で目立つ高度肥満例では精神疾患を 80% に合併した。＜性差＞年齢分布，若年の高度肥満と DL，高齢の DM に有意な性差を認めた。〔結論〕性・年齢により NAFLD の主たる原因疾患が異なった。NAFLD の症例抽出や治療において，これらを考慮することが重要である。

### 原発性アルドステロン症における腎機能障害に関する研究

(1) 東京女子医科大学内科学 (第二)，<sup>2</sup> 国立病院機構京都医療センター) 立木美香<sup>1</sup>・

田辺晶代<sup>1</sup>・成瀬光栄<sup>2</sup>・木村 瞳<sup>1</sup>・津曲 綾<sup>1</sup>・